

平成25年11月12日

議会報告会報告書

議会広報広聴特別委員会委員長 松野 豊 様

議会報告会 2班
班長 森 亮二
植田 和子
斉藤 真理
阿部 治正
西川 誠之
中川 弘
山崎 専司

私の班は議会報告会を開催し、その概要は下記のとおりでしたので、ご報告します。

記

- 1 **日時** 平成25年11月10日(日)
午前10時30分～午前12時30分
- 2 **場所** 十太夫福祉会館
- 3 **欠席議員** 1人 (体調不良により)
- 4 **参加者数** 6人
- 5 **報告内容**
 - ・平成25年度第3回定例会教育福祉委員会の議案報告
 - ・流山市が進める小中一貫教育について
- 6 **意見交換内容**
 1. 9月議会 教育福祉常任委・決算審査報告

<市民の質問>

小中一貫校が出来るが莫大な事業費がかかる、既存校との格差が生じないように配慮を。古いのはある程度やむを得ないが、ぴかぴかの学校との格差は問題。危険を回避するのが一番。安全面が大事。

学校のいじめの問題。先生が目をよく通すことが大事だが、先生が忙しすぎる。議員も目を通して、教師の負担を軽減することが必要。雑用、無駄なことが多く、大事な仕事が出来なくなっていると聞いている。これが本質的な問題。改革を学校関係者でやるには限界がある、議員にやって欲しい。

通学路での暴走車の問題。集団登下校が危険、歩車道を区別するブロックを検討すべき。おおたかの森駅周辺を中心に急激に街が変わってきているので、対策が急がれている。

<議員の意見>

新設併設校と既存校との格差の問題。現状でも児童数がピークに達している学校がある、新しく作る学校の面積が1・5倍の開き、この開きが教育の質に関係してくると問題、食育のためのランチルームが用意されるが、ピーク校は全くない、教育の質に影響が出ている、質の格差はなくさなければならぬ、既存校の修繕や学校区の見直しが重要、議員からも意見が出ている、新設校は当局の着手が遅れたことも影響して議論することができなかつたのが問題。

この委員会でもいじめ問題で苦悩した他市の視察を行った、その市では議会としても対応しなければいじめ防止条例が作られた。真摯な取り組みだとは思いますが防止条例で対策になり得るのか、私は不十分だと思った。いじめ問題で良く指摘されていることは、いじめられている子の回りにいじめっ子、傍観する子、きちんと対応しない教師集団、学校、教育委員会などの5重6重の壁がそそり立っているとされる。この壁に立ち向かうのは非常に困難。徹底してこどもの立場に立つという観点からは、他の対策と並行して、いざというときのシェルターや既成校以外のフリースクールの位置づけが重要になってくると思う。

通学路の安全性の指摘は重要と受け取る。区画整理で道路がどんどん変わっている。江戸川台の駅に向かう新しい道では、優先順位が逆になったこともあり事故が頻発をした。市民要望もあり、議員も議会で指摘し対策が打たれた。三輪野山に坂道の下に信号機がない交差点があり、住民要望は以前からあった。大きな事故が今年に入り3回、申請は出しているが流山は新道が多いので信号機の申請が多くなかなか設置が進まない。道の状況をよく知らない新住民が多いこともあり事故が多いこともある。それぞれの原因を究明して対策をとる必要もあり、安全教育も重要。あらゆる交差点に信号機つけるわけにもいかないが、集団登下校に車が突っ込む事件など見るにつけ、対応の必要を痛感している。ガードパイプ、ガードレールが設置できない道幅のところは通学路の変更も必要になるのでは。

こどもの見守り活動も流山では盛ん、ソフト面だが登下校時の見守り安全パトロールが7000人登録されて行われていることも、流山の強さの一つ。

<市民の質問>

通学路のブロックは車の通行の邪魔になるという意見もあるが、子供・人の通学の安全が優先なので車は迂回すれば良い。本末転倒にならないように。

<議員の意見>車の交通については信号機の問題として言ったのであり、こどもと人の安全が第一という考えで取り組んでいきたい。

<市民の質問>

森の倶楽部など民間委託の問題。市の直営は費用が掛かるということで民間委託を行っているが、どういう基準で指定管理者を選んでいるか、人選を行っているか。親切な人もいるが、上から目線や無然とした態度は問題がある。

<議員の意見>

事業そのものを良く理解している人、地元に近い人のほうがよい、選ぶ方が見極めることが重要。地元のアンケートは毎年とって、年に一回評価を下している。市民の意見が通れば新しい人に代わることもある、その場その場で意見を出していただくことが大事で、その集大成として変わっていく。

指定管理者の職員採用は事業者任せ、管理者の考え方に左右されている。事業者経験が長い事業者は運営が洗練されている。流山だけではないが、関係している人たちだけでNPOをつくって委託管理している場合もあり、経験不足のケースもある。その都度意見を出してもらい、議員も改善提案をする中で、関係者で改善していくことが必要。

2. 流山市の小中一貫教育について

<市民の質問>

小中一貫教育を政府があちこちで進めている。莫大な予算がかかる、他の学校との格差も心配。本当に必要なのか。小山小学校は先の見通し持っていたら最初からもっと大きな学校にできたのではないかと。小山小計画に賛成した議員も多いがどうか。

おおたかの森駅周辺にマンションができて、若い人を呼び込んで、税金を払ってもらいたいという施策のようだが、高齢者はどうでもよいという感じ。アベノミクスの下で若い人の労働条件は派遣社員などが多く劣悪で、結婚できない、子供も産めない状況。流山を人口誘致策で宣伝しても若い人は来てくれない、将来に不安があるから。立派な新設校をつくりましたが教室はガラガラでしたではいけないのでは。

<議員の意見>

新設校はトータル費用としては135億。地域が急激に発展しているので作らなければならない。小山小建設時に予測違いがあったと思う。今回は、市街化区域での開校で土地代が高く、54億円。小中を別々につくるよりかえって安上がりだが、このことが伝えきれていない。早めや早めに説明をできれば理解が得られやすかったのではないかと思う。

小山小学校の規模を決めたのは市長、足りなくなって仮設校舎を造ったのも市長、新しい学校はピーク時に合わせて大規模校になっている、新しい住民を呼び込もうという政策をとっているにもかかわらず、学校づくりをサボってきた市長の責任。

<議員の意見>

一貫教育の問題点について。子どもたちの心の教育、学力の改善向上は、連携教育でも、連携教育以前のやり方でも、本当は可能なことだと思う。フィンランドの例を見ても分かるように、詰め込み教育をやめ、押しつけ教育をやめて子どもたちの自主性を尊重する教育に変えたことで、学力が世界一になり、こどもの心の育ちも改善された。併設校建設の問題点。一番大事なことは、教育事業を人寄せパンダにしてはいけないということ。教育において重要なことは、公平性や平等性、その下で子どもたちの心も学力も育つ。新設校の校舎のデザインにしても奇抜すぎる。教育施設であるのだから、格差間を生まないデザインが良い。

<市民の質問>

老朽化した学校がある。二つの50年以上たっている学校もなんとかしなければならぬ。莫大なお金をかけて新しい学校建設というのは、本末転倒ではないのか。やむを得ないという人もいるが、何でもかんでも国の政策に服従するのではなく、弱者のため、議会としても頑張りたい。

<市民の質問>

学校間の格差の問題。トイレに問題のある学校もある。改修費はそんなにかからないはずで、やってあげないといけない。

<議員の意見>

老朽した学校に対しては、委員会として年明けから現場を視察し、校長などと意見交換をする予定を立てている。成果に変えていきたい。

<質問>

併設校の問題。あと二年ちょっと開校するが、二年でやってほしいことがある。私は地域で育ってきた、親・子供・兄弟が回りにいた。そういうことが今できなくなっている。子供をどう育てていくかということの中身が大事。人として仲間と繋がって、家族を大事にし、地域の中でいきいきと育てていくことが重要。併設校の中身が重要。以前は教師集団が時間をかけて教育を行ってきたが、今は時間外 90 数時間、1 か月 100 何時間。地域住民の声、様々な経験を重ねた人の意見、若い人の思いを聞き取って、それらを絡み合わせて、子供を大切にす地域ぐるみの学校づくりが必要。併設校でも教育の中身が重要なので、地域と十分に交流をしてほしい。

<議員の意見>

長い間自治会活動やってきた、議員としても地域に育てていただいた。新設校の区域は人が住んでいなかったところに学校ができる、町づくりという点で重い課題を今日はいただいた。おたかの森駅周辺は地域がまだできていない、子育ては地域で行うもの、然り、助けて貰う関係、マンションが多い地域ではそういう関係が希薄になりがち、

おっしゃる通り、中身の伴っていない小中一貫教育ではだめなので、施設は二の次、教育の中身重視で低減をしていきたい。

3. その他

<市民の質問>

通学路のブロックは車の通行の邪魔になるという意見もあるが、子供・人の通学の安全が優先なので車は迂回すれば良い。本末転倒にならないように。

<議員の意見>

車の交通については信号機の問題として言ったのであり、こどもと人の安全が第一という考えで取り組んでいきたい。

<市民の質問>

少子高齢化社会を作ったのはだれか、子供を産むと嫌がらせで会社を辞めさせられる現実もある、これでは子供を産めなくなる、労働条件の悪さが少子化を招いている。

高齢化で空き家が増えている。火災、こどものたまり場になる問題を生んでいる。自殺、虐待の問題も深刻。なぜ、可愛い、澄んだ目のこどもを虐待できるのか、社会の背景も考えなければならない、虐待の連鎖もある。泣き叫び、涙も涸れたこどもをなぜ虐待できるのか、子どものことを考えない人間は人間じゃない。一度には解決できないが、そうした問題にも期待しているので、しっかりと取り組んで欲しい。

<市民の質問>

流山でも、原発事故に伴う放射能汚染を心配して、市民が基金をつくって、子どもたちの甲状腺エコー検査に取り組んでいる。議会でも追及し、自治体で取り組めるようにして欲しい。

4. 議員からの総括的意見

自分の会派は執行部に対してはきつめの対応をしている。今後も市民の声を受け止め、市民の暮らし

のために、執行部に対して働きかけていきたい。

少子高齢化やいじめなどの社会的背景を考えなければとの指摘は重要。中でも雇用・労働環境の問題は大きい。単に国政の課題というだけではなく、自治体行政、自治体議員の課題として、同僚議員と共に一生懸命に取り組んでいきたい。

少子高齢化が深刻だが、人口構成のバランスが重要という前提で、子どもを安心して産み育てられる環境作りが必要。高齢化社会の中で費用負担の増大という現実がある中で、お元気で歳を重ねて欲しい。市で出来ること、個々人で取り組むこと、様々な課題があるが、住みやすい流山をつくりために取り組んでいきたい。

議員たるもの何が役目なのか。議員間で議論、合意をして、まとまった結論を得ていく。議会として結論を出したことについては、後からああだこうだというよりも、議員として責任を負っているという意識で、後で反省、再評価しつつ責任を果たしていく必要がある。うまくいかないときは議会も責任を持たないといけない

人口が永遠に増えることはあり得ないが、高齢化の過程でどういうことが大事になるか。大企業のレベルでも働く人々への配慮が足りない、女性は子供を産むと管理職にもなれない、少子高齢化対策には社会全体で取り組む必要がある、子育ては過程の中だけの問題ではなく地域全体で取り組む必要がある、そういう方向に考えを変えていく必要がある、自分は保守系だがそう考えている。

国も街も活力をなくしていく、少子高齢化には歯止めをかけなければならない。この財政の問題も抜きには考えられない。国も地方も財政が厳しい中で、ソフト面、アイデアを優先する必要がある、発想の切り替えが必要で、財政の問題も併せてしっかりと考えていく必要がある。

7 参加者から議会への要望

新設校建設に伴う学校間の施設や教育環境格差をなくして欲しい。老朽化した2校への対策やトイレの改修を急ぐよう、執行部へ働きかけて欲しい。

いじめの背景にも教員の仕事が忙しすぎるなどの問題がある。学校関係者だけの取り組みには限界があるの議会でも取り組んで欲しい。

通学路の安全確保に努めて欲しい。ガードパイプやブロック設置をして欲しい。

公共施設の指定管理者の職員による利用者への対応を改善して欲しい。

新住民を呼び込む施策も、若者の雇用や労働環境が悪化し、結婚できない、子どもを持ってない状況ではおぼつかない。教育事業特に学校建設は、そうした問題も見ながら、長期的な見通しに基づいて行って欲しい。

少子高齢化の背景のひとつである働く人々の雇用や労働環境の悪化への対策に取り組んで欲しい。

高齢化にともなう空き家の増加、いじめや虐待などの背景にある社会問題の改善に取り組んで欲しい。

原発事故にともなう放射能の健康への影響を心配し、市民が基金を立ち上げて甲状腺のエコー検査などを行っている。市としても支援策を考えて欲しい。

8 . 所感

初めての委員会別報告会。この地区選出の議員もいたが、「動員」の申合わせなし。議会側の周知が不足？小中一貫教育という話題もインパクトにはならなかった？手話通訳申込者なし。磁気ビームも一人。市民の参加が6名。残念な結果となった。議会への市民の関心が少ないと片付けられない問題。まだまだ努力不足か？（西川 誠之）

今回の報告会から委員会構成の班になったことは非常に良かったと思います。例えば案内を掛けるのにテーマ設定をしやすくなったり、また議会活動として重視され難い委員会審査の内容に関して関心を持って頂くべく議案審査報告を行ったことは皆さんに議会活動を知っていただく上でも有意義であったのではないかと思います。今後も更に工夫を重ねていきたいと思います。（森 亮二）

動員の是非、議題とするテーマ、議会の総意か個人の意見かなど議会主催の報告会の在り方の難しさを改めて感じさせられた。

市民の参加数は少なかったが、その分落ち着いた意見交換ができたことは良かったが、今後の議会報告会の在り方は見直すべき時期に来ていると感じた。（中川 弘）

私達2班での参加者からの質問は、児童で溢れプレハブを増設した小山小について「将来の見通しをもってやっていたのか？」や、小中併設校について「子どもをどんな風に育てるのか？」等、疑問をもって当然の質問ばかりでした。行政と市民との意見交換の足りなさも、より明確となり、行政は今後も検討が必要だと感じました。（植田 和子）

ごみゼロ作戦の日と重なってしまった為か、参加された市民の方が6名と少なかったが、逆に、お一人おひとりの意見をじっくりと伺うことができ、建設的な意見交換の場になったと思う。

次回からの議会報告会の日程を決める際には、全市的な行事の日程と重ならないよう、細心の注意をしていきたい。（斉藤 真理）

市民が議会報告会に求めているものは何か、各議員や会派の見解を聞きたいのか、議会全体としての考えを知りたいのか、はっきりとしない部分が多い。議員や会派からの情報発信と市民との意見交換を充実させたいうえで、なお残る議会報告会の特別な意義について、明らかにしていく必要があると考える。（阿部 治正）

